

# 2015 年度 KEIEITAN ボランティア隊活動報告

## KEIEITAN 2015 Volunteer Activities by Students in Tsunami-Devastated Area in Japan

早川 健太郎  
Kentaro Hayakawa

高木 弘恵  
Hiroe Takagi

### 〈摘要〉

本報告は、名古屋経営短期大学が平成 23 年から実施しているボランティア活動の 5 回目の実施報告である。2015 年 10 月に結成した「2015 年度 KEIEITAN ボランティア隊」は、未曾有の被害をもたらした東日本大震災について事前学習をし、被災から 5 年経過した宮城県気仙沼市を訪れ、そこで学生が見たものや、現地でお会いして話した方々との中から感じたことまとめ、本学生を対象に開催した報告会において伝えることを目的として行った。報告会では多くの学生にボランティア隊が感じたことを伝えられたと考える。

〈キーワード〉 東日本大震災、KEIEITAN ボランティア隊、気仙沼市

### I. はじめに

名古屋経営短期大学では、東日本大震災が起きた平成 23 年より、毎年ボランティア隊を結成し、東北へのボランティア活動を行っている。平成 24 年には宮城県仙台市、福島県いわき市を訪れ、作業ボランティアを行っている（近藤ら，2013）<sup>[1]</sup>。昨年は、学生と社会との相互発展の寄与、遠隔地からの復興支援をテーマに宮城県仙台市、名取市を訪れて行われた（武田ら，2016）<sup>[2]</sup>。しかし、震災から 5 年たった今、作業ボランティアの必要性は当時より少なくなってきており、ボランティアのあり方を見直す時期に来ている。日本各地で起きている災害や身近な高齢者の問題等、作業ボランティア活動の場は多くあるが、今なお東北ボランティアなのか。それは、未曾有の被害をもたらした東日本大震災だからこそ、東日本大震災について学び、訪れ、復興の現状を見て、現地の方と過ごす中で学生が感じる事が重要であると考え。そこで本年は、震災のあった 3 月 11 日をはさんで 3 泊 4 日で宮城県気仙沼市を訪れ、学生自身が感じたことを、本大学の学生に伝えることを目的に行った。そのために事前学習等、半年以上前から活動を行った。

## II. 活動内容

### 1. 活動日程

- 10月 ボランティア隊 活動メンバー募集・決定
- 11月 年間計画立案・事前学習会1・事前学習会2
- 12月 事前学習会3
- 1月 現地行程調整・事前学習会4
- 2月 事前学習会5
- 3月 宮城県気仙沼市における活動
- 4月 報告会 原稿作成・スライド作成 発表練習

### 2. ボランティア隊 メンバー

- 学 生 岡本俊哉（未来キャリア学科2年）、若山直人（未来キャリア学科2年）、  
岡安兼蔵（未来キャリア学科1年）、橋本駿（未来キャリア学科1年）  
計4名
- 教 員 高木弘恵学長、早川健太郎講師、学生支援委員会

### 3. 事前学習内容

- ・「東日本大震災について」
- ・「宮城県気仙沼市における被災状況について」
- ・「宮城県気仙沼市における復興の現状について」
- ・「伝えることは何か、情報収集と準備」
- ・名古屋市博物館 見学

### 4. 宮城県における活動

- 実施日 平成28年3月9日～12日 3泊4日
- 場 所 宮城県気仙沼市を中心に
- 協 力 気仙沼市市議会議員 及川善賢様  
元気仙沼市小泉地区公民館館長 佐藤義行様  
気仙沼市小泉地区公民館館長 斎藤修様  
KTO ネットワーク代表理事 阿部寛行様

### 5. 報告会

- 実施日 平成28年4月21日（木）13：00から
- 内 容 「東北ボランティア隊 報告会」

発表者 岡安兼蔵・橋本駿

参加者 未来キャリア学科・子ども学科1年生及び健康福祉学科1,2年生全員参加

### Ⅲ. 活動詳細

#### 1. 事前学習について

事前学習は合計5回実施した。宮城県気仙沼市における被災状況と、それからの復興の様子についてそれぞれの学生が自ら調べ、発表した。そして初めは気仙沼市<sup>[3]</sup>の状況について調べていたが、現地の場所が決まるとそこを重点的に調べるようになった。また本年のボランティア隊として、本大学にいる学生に何を伝えなければいけないのか、今、自分自身が感じることを議論した。



写真1 事前学習の様子

その中で「現地で自分たちが見たこと・感じたこと」と「現地の方たちとの対話」を中心に、我々が住んでいる東海地区で発生が予想されている大規模な地震に対して、常日頃からどのようにすることがいいのかを伝えることとした。そのためにどのような取材や準備が必要なのかを考えた。さらに、名古屋市博物館で行われていた特別展「陸前高田のたからもの」を見学し、陸前高田市は気仙沼市とは隣接する都市だけに、学生は多くのことを感じていた様子であった。

#### 2. 宮城県気仙沼市における活動について

- 9日 名古屋出発 気仙沼へ
- 10日 気仙沼漁港 本吉町小泉地区交流会 小泉海岸～杉ノ下地区見学
- 11日 わかめ狩り体験 気仙沼市東日本大震災追悼式参列
- 12日 気仙沼出発 名古屋へ

##### 1) 気仙沼漁港

9日、名古屋を出発し、バスを乗り継いで翌10日午前6時に気仙沼市役所前に到着した。ここでは、及川様と佐藤様が朝早くにもかかわらず到着を待っていてくれた。そしてここから車で移動し、気仙沼漁港を訪れた。大きな被害を受けたこの漁港ではあるが、今では漁港も建築され営業も行われていた。この日は蟻が水揚げされており、賑わっていた。しかし海と反対を見ると、かつては多くの工場やお店があった土地に、雑草が生えているだけで建物のない荒地もあった。その中にはいまだに被災したままの建物もたっており、

5階建ての2階上部には津波の高さを記した看板が張られていた。学生たちは被災の様子と復興とを間近で見ればし言葉を失っていた。

## 2) 本吉町小泉地区交流会

市内は盛り土をするために県外から土を運んでくるトラックであふれていた。また道路は砂埃がかなり立っていた。朝食を済ませ、海沿いの道を走り、本吉町小泉地区の高台にある公民館へお伺いした。道中、この地区の当時の取りまとめ役をされていた及川様と佐藤様から、その場所で起きたお話についてお伺いでき、学生は目の前に広がる光景と照らし合わせながら臨場感を持って聞くことができた。



写真2 交流会

公民館では、この地区でボランティアをされている阿部様とご挨拶をし、この日に同じ行程でボランティアを行うグループとあいさつを交わした。ここでは神戸と北海道から寄付された小豆ともち米を使って、この地区に伝わる「家宝だんご」をボランティアみんなで調理した。出来上がったものは、現地の園児と老人会の方たちと一緒に交流会で食した。昔から伝わる郷土料理を、小さい子供たちに伝えたいという思いがあり、今回実施となった。ほとんどを津波に襲われたこの地区は、避難した後戻ってこられない方が多く、だからこそ子どもたちを大事にしたいという思いがひしひしと伝わってきた。また、交流会では当時のお話をお伺いできた。その中で、一人の方が、お伺いした話を多くの人に伝えてほしい、自分たちと同じ経験を今の若い方たちにさせたくないとおっしゃったのが印象に残る。学生もこの言葉を伺って今回のボランティアの意味として、震災のことを風化させないことの重要性を見出したようであった。

## 3) 小泉海岸～杉ノ下地区見学

阿部様の案内で、小泉海岸から大谷海岸駅に向かった。ここは日本で一番海水浴場に近い駅として知られていたが、津波ですべてが流され今は電車が通っていない線路だけが残っていた。さらに車で杉ノ下地区へと行った。ここでは17mの津波に見舞われ、避難場所で多くの方が亡くなった。その避難場所にある慰霊碑の前で、阿部様から避難場所でさえも津波が来たこと、安心したことが多くの犠



写真3 小泉海岸

犠牲者を出したこと、想定外はないことを伺った。学生たちはこのお話から、被災したとき、自分たちは避難所に行けばいいと考えていたが、それではいけないことに気づかされた様子であった。この日、宿に戻り、各自が感じた事、見たことへの率直な感想を記していた。どんな言葉が自分の気持ちに当てはまるのか、なかなか言葉が見つからない様子であったが、それぞれがまとめた。

#### 4) わかめ狩り体験

翌日は朝から南三陸町にある漁港でわかめ狩りの体験をさせていただいた。この漁港では震災後たった一隻無事であった漁船で協力して、震災の翌年からわかめ漁を再開した。現地の方と一緒に作業をする中で、学生がそれぞれの方と当時の話や、今の生活について伺うことができた。



写真4 わかめ狩り

#### 5) 気仙沼市東日本大震災追悼式参列

午後からは、「気仙沼市東日本大震災追悼式」に参列させていただいた。会場は多くの方たちであふれていた。式が始まり、進んでいく中で被災者代表の方のお話に学生たちは真剣に聞き入っていた。当時の様子、そして震災から今までの道のり、さらにこれからと、被災地での問題やこれからの思いを切に感じることができた。震災と同じ3月11日に現地を訪れ、その天候や気温を肌で感じ、今なお復興へと向かう現地の方たちとの交流を図ることで、学生たちは自分たちが何をしなければいけないのか、この2日で感じた事や考えたこと、思いなどをどのように伝えるのかを考えてまとめる作業を夜遅くまで行った。

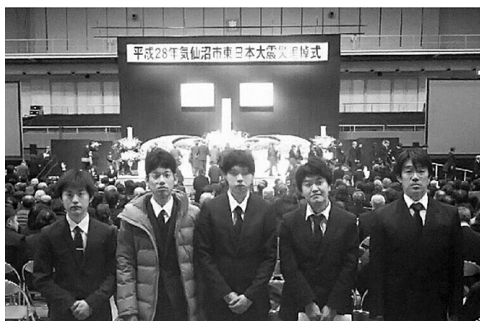


写真5 追悼式

### 3. 報告会

報告会では何を伝えるべきなのか、準備に時間を要した。今回、2年生はすでに卒業して報告会はいなかったが、4月に入ってから学校へ来てくれ、準備までは全員で行った。4月21日に3学科全ての1年生と健康福祉学科2年生を集め、報告会を行った。まず「みんなに伝えたいこと」と気仙沼市本吉町小泉地区の被災時の動画<sup>[4]</sup>が入っているQRコードが印刷されたプリントを全員に配布した。続いて引率教員から簡単な説明の後、岡

安さんと橋本さんの報告会が行われた。ほとんどの学生が、スライドと彼らが話す言葉に真剣に聞き入っていた。最後に、みんなに伝えたいこととして「震災の風化を防ぐこと」、「避難三原則 率先たる避難者であれ・どんな状況でも最善を尽くす・想定外をなくす」、「自分に置き換えて考える」、を伝えて終了した。参加していた学生はまさに自分の頭の中で様々なことを考えてくれていたように思う。

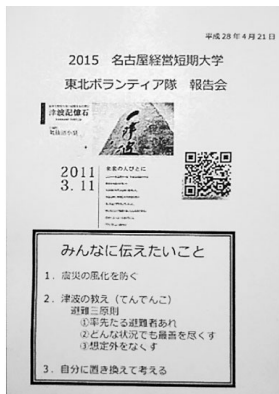


写真6 配布資料



写真7 報告会の様子

#### IV. ボランティア活動を終えて

2011年（平成23年）3月11日14時46分18秒に東日本大地震が発生し、マグニチュード9.0で日本周辺における観測史上最大の地震から、早5年が経った。震災後、すぐにボランティアにかけつけたときのことは今でも忘れられない。地震によって発生した大型の津波、火災、福島第一原子力発電所の事故で多くの被災者を出した。残された人たちは、生き延びるために懸命に助け合い、1日におにぎり一つを食し、避難所である体育館や公民館での生活を余儀なくされていた。

ボランティアとしてできることは何でもしたいと現地に向い、感じたのは被災者の方々から逆に勇気をいただいたことだ。被災地を回り人間の無力さと人間の温かさに心が震えた。ある高校生が明るい声で「感謝の言葉、愛情の言葉は思った時にすぐに伝えて下さい。もう会えないかもしれないから」と挨拶した。学生に何か一つでも復興支援に携わり、人の役にたてる心豊かな人になってほしいと強く感じていた。

それから毎年、名古屋経営短期大学では、短大生をボランティアとして東北に送っている。「百聞は一見にしかず」のとおり、皆成長して帰ってくる。そして報告会では、学生の心にストレートに響く、感じたままのものが発表されている。

今回のボランティア隊は、3月11日に合わせて被災地に行き、式典にも参加させていただいた。気仙沼で出会った方々のお陰で、このようなボランティア活動ができています。感謝の気持ちははかりしれない。平成28年3月には、姉妹校の名古屋産業大学にも参加

者を募り、合同で参加する予定である。学生には、今後も東北のボランティア活動を通して「感謝」、「支え」、「思いやり」の心を磨いてほしいと思う。この経験を糧に人生をたくましく豊かに築いてほしいと強く願う。

## V. 謝辞

宮城県気仙沼市でお世話になった、気仙沼市市議会議員 及川善賢様、元気仙沼市小泉地区公民館館長 佐藤義行様、気仙沼市小泉公民館館長 齋藤修様、KTO ネットワーク代表理事 阿部寛行様、また小泉地区の皆様方に深く感謝いたします。また、本年度のボランティア隊実施にあたりご支援、ご協力をいただきました名古屋経営短期大学学友会、名古屋経営短期大学学生支援委員会、教職員の皆様、菊武学園本部の皆様に対しても感謝いたします。記して謝意を表す次第です。

### 【引用文献】

- [1] 近藤城史、渡部琢也（2013）KEIEITAN ボランティア隊震災復興ボランティア活動報告、名古屋経営短期大学紀要、54号、pp. 45-58
- [2] 武田直之、塚本佳子、早川健太郎（2016）2014年度 KEIEITAN ボランティア隊活動報告、名古屋経営短期大学紀要、57号、pp. 9-18
- [3] 気仙沼市ホームページ  
<http://www.city.kesenuma.lg.jp/www/toppage/000000000000/APM03000.html> 2016/3/9 参照
- [4] 忘れてはならない記憶を石に刻む 津波記憶石  
<http://tsunami-ishi.jp/kesenuma-koizumi/> 2016年3月9日 参照